

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692000033		
法人名	株式会社きずなケアサービス		
事業所名	グループホームよさの かぐらユニット		
所在地	京都府与謝郡与謝野町字三河内883番地2		
自己評価作成日	平成27年12月11日	評価結果市町村受理日	平成28年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2692000033-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2692000033-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年1月22日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームよさのでは地域とのつながりを大切にしています。毎月開催しているふれ愛サロンや映画会には地域の方と共に楽しむことができている。『ふれ愛サロン(認知症サロン)』ではより多くの地域の方に参加して頂き、共に楽しい時間を共有することができています。出前カフェも年2回開催しています。地域の方を巻き込んだ映画祭の開催、定期的音楽活動『奏笑の会』(かなえのかい)の会運営推進会議の場面、行事時、など日常的な部分でも地域交流が進んでいる。ホームでの日常生活では、本人の希望を毎朝聞き取り、できるだけ希望に沿った外出を多く取り入れて、いろいろな所へでかけ楽しむようにしています。施設内の生活では、毎日の個々の役割を作り、支援したり、少しでも自立できるように個別のリハビリに取り組んでいます。地域の保育所とのクリスマス会、キャラバンメイト、施設実習を通じた小中高学生との交流など、様々な活動を実施しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、開設時に作成した「私たちは利用者の皆様方の思いに寄り添い、温かい心で家庭的な安らぎのある生活を支援します。」という独自理念の下、地域の清掃や下校時間の子供達の見守り隊に利用者が参加したり、事業所での行事に保育園児を迎えて交流したり、映画会や餅つき、夏祭り等に多くの地域の方を招くことで利用者が入居後も地域との関わりを保てるように日々の支援を行っています。また職員には様々な業務の係がありいずれかに所属して活発に意見や提案を出しながら主体的に取り組み運営の改善や利用者本位のサービスに努めることが職員のモチベーションのアップにも繋がります。サービスの向上に活かされています。利用者の身体機能が維持向上できるようにリハビリ器具を導入する等の環境も整えながら穏やかに思い思いに過ごせるように支援しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時出勤者全員で理念の唱和し、意識付けを行い共有し、意識した業務の実践に繋げるようにしている。	法人の理念と合わせて、開設時に管理者が作成した事業所独自の理念とユニット毎の目標を毎朝唱和し職員へ意識付けをしています。入職時の新任研修で理念に込められた思いや目標等も説明し、半年毎の会議で振り返りを実施することで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりを大切にしながら地域の行事・隣組の寄り合いなど、出来る限り地域住民として職員も共に参加、交流に努めている。また認知症対応型カフェ事業を通じて交流を深めている。	地域の文化祭に利用者の作品を出品したり、利用者は小学生の下校時の見守り隊や地域の清掃に参加しています。事業所内でのクリスマス会には保育園児を送迎して交流したり、映画会や餅つき、夏祭り等の事業所での行事には区内の放送を利用して案内し近隣の方を招く等、活発に地域との相互交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を町の小学生、中学生向け、また地元高校の先生を対象に実施し、認知症相談も行なっている。地域作りに参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活の様子をパワーポイントで投影し見て頂いたり、日々の仕事内容などの係活動を係の担当者が直接より分かりやすく説明したりしている。また意見があれば、反映できるように取り組みを報告している。	会議は2か月に1回利用者や家族、介護相談員、民生委員、区長、町職員等の参加の下開催し、会議のテーマに応じて業務を担当している職員が活動報告などを行い意見交換をしています。区長より地域向けの催しの告知をしてはとの意見をもらい区内放送を利用して案内する等、意見をサービスの改善や運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者との関係を密に取り、実情や取り組みなども相談しながら、必要なことは情報共有し、協力関係を築くように取り組んでいる。また介護相談員さんにも来て頂いて意見を頂いている。	運営推進会議に町の職員の参加があり、町主催の事業所連絡会や認知症カフェ、キャラバンメイト等に参加したり、町の職員と相談や情報交換をしています。町の担当と話す機会も多く協力関係を築いています。研修の案内が届いた際は可能な物には参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。具体的にマニュアルなどの回覧、勉強会を実施するなど、理解して取り組んでいる。	入職時や年1回の研修、勤務年数を加味して適宜行う研修等で身体拘束について学んでいます。職員の言葉かけが乱れたり、ヒヤリハットがあった時は個別に注意し、利用者に穏やかに過ごしてもらえるような声かけをしています。屋上以外は施錠せず、外出希望の利用者には閉塞感のないようにできるだけ付き添い納得してもらえるよう対応しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修・内部研修を通じて勉強している。また言葉の虐待も無いように職員同士、言動を注意し、細かな事でも会議を設け意見を聞き、起こらないようにしている。		

グループホームよさの かぐらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に内部研修を通じて、制度の理解を深めるようにしている。権利擁護の内容と必要が見込まれる方には、家族様に対して説明などを行っている。また市町村申し立て等必要なケースがある場合は行政との連携・相談をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、できるだけ丁寧に説明し、ご家族様の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解と納得を図っている。また質問に関しては随時お答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置するとともに、面会等来られた機会に何かご意見がないか聞き取るように努めている。また意見を聞いた時は、会議や回覧物を通じて全員へ伝達している。	家族の意見は来訪時や運営推進会議に写真を見てもらい意見を出しやすいように工夫し、遠方の家族には電話等で意見を聞いています。また食事や排泄などサービス事の担当者から随時アンケートを実施し利用者や家族から意見を聞き、リハビリ器具の購入などに繋げています。また毎朝利用者にその日の希望を聞く等、意見や思いを引出すように努めサービスに繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のコミュニケーションを通じて話せる機会を設け反映させている。	月1回の職員会議や日々の支援の中で管理者が随時職員に声を掛け意見を聴いたり、職員は提案書で意見を出しています。意見から物品購入につなげたり、入居案内を見やすく変更する等、運営に反映させています。また管理者はできるだけ現場の職員に業務を任せ、職員は担当する業務を通して積極的に考え意見を出しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の働きを把握するように努め、条件面の見直しや環境の整備等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の職員に応じた外部研修の機会を多く設け、スキルアップできるように補助している。また内部研修や職員同士による勉強会もよく行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	役場で行われる認知症カフェ定例会への参加やグループホーム連絡会などで交流している。また役場主催のキャラバンメイト活動でも他施設職員との交流を行っている。		

グループホームよさの かぐらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接や、入居時、また初期の段階に置いて、本人の不安や要望を聞き取り、安心して馴染んでもらうことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との関係づくりに取り組んでいる。特に初期は不安があるため時間を持ち、不安や要望を聞き取るようにし関係作りをより深めていくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と在宅サービス担当者、ケアマネジャーと連携し、在宅生活の時期など含め相談し、適したサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は共に行うようにし、出来ないところをサポートしていくことで、本人と暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に本人を支えていけるように、本人と家族の繋がりを大切に、情報を発信し、家族への行事参加などを通じて関係を築いて連携していけるようにしている。家族様の要望を踏まえ支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から関係継続できるように、馴染みの場所の催しごとへの外出やまた馴染みの方に遊びに来ていただけるよう支援している。	知人の訪問があり、居室へ案内してお茶や椅子を用意しゆっくり過ごせるよう支援しています。以前に利用していた施設を職員と訪問したり、家族と冠婚葬祭等で外出する際には服装等の事前の準備を支援したり職員が付き添うこともあります。キーパーソンとなる人など多方面から継続的に情報の収集に努め関係が継続できるように支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、孤立せず助け合えたり出来る支援をしている。孤立しがちな利用者は職員が間に入りながら繋がるように支援している。		

グループホームよさの かぐらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の仲良くされていた利用者と共に墓参りに行ったり、別の施設に行かれた方に機会を見つけ面会に行くなどして繋がりを保ち、必要に応じて支援できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々や定期的に会話を聞き取り、アンケートなどを通じて利用者の希望、意向の把握に努めている。難しい方は家族への聞き取りやアンケートを通じて本人本位に検討している。	入居時に利用者や家族との面接で希望やこれまでの生活歴等を聞き取り、以前に利用していたケアマネジャーからも情報を収集し記録に残し意向の把握に繋げています。入居後は毎朝利用者にその日の希望を聞き、個別の記録等に残して職員間で共有したり、6か月毎に利用者や家族へアンケートを実施する等、意見を聞く機会を多く持ち意向や思いの把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース会議を通じて定期的に生活歴や生活環境等利用までの経過を確認しあい、全職員が把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状の把握が出来るように、個人ケースに記録を残し、職員同士でも情報を共有できるようにして努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議までに利用者、家族それぞれに聞き取った意見をもとに、現状を確認しあいながら介護計画の作成に繋げている。	アセスメントを基に作成した介護計画は毎月のケース会議で全利用者の状況を確認し、安定している利用者は6か月毎にモニタリングと再アセスメントを実施し介護計画を見直しています。必要に応じて医師の意見等を反映し、家族へは介護計画を説明して同意を得たり意見があれば見直しに反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個別のケース記録、また各記録に基づいて記録することで、職員間での情報を共有し、実践できるように取り組み、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り既存のサービスにとらわれず、一人一人の状況に応じて必要であり、また希望されていることに対応できるよう取り組んでいる。		

グループホームよさの かぐらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域開催の敬老会への参加、地域で開かれているサロンへの参加を通じて周りの方に支えて頂きながら繋がりを深め、豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望のかかりつけ医への受診、または往診に来て頂き、それぞれのかかりつけ医と関係を築くことで、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にこれまでの掛かりつけ医と事業所協力医の選択が可能なことを説明し、選択してもらっています。かかりつけ医や協力医は家族や職員の対応で受診に必要な情報を交換し、医師との連携も図っています。緊急時は主治医や看護師に相談し指示を得て対応しています。利用者や家族の希望や必要に応じて歯科を受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に合わせて必要時にホーム看護師、訪問看護ステーション看護師に相談し連携して、適切な受診し、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、担当看護師や医療連携室と連携をとり安心して治療してもらえるよう支援し、また早期退院できるように情報交換、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される時に看取りに関する指針を共有し家族利用者にも説明を行うように努めている。往診医と連携し家族様に終末期のあり方について共有している。	入居時に家族へ重度化の指針に基づいて事業所で対応可能なことを説明し同意をもらっています。利用者の状態が進んだ際は往診が可能な医師を紹介し、家族の面会等の協力を得たり、職員が不安なく看取り支援に取り組めるよう事業所の看護師との連絡体制等を整えています。また職員は看取りの外部研修に参加して知識を習得しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受講している。また事故発生時のマニュアル作成に合わせて対応している。口頭での伝達は日頃から行っているが、訓練の実施までは至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜含めでの防災訓練を毎月実施している。年に2回は消防署立会訓練も実施している。毎年ある地域の防災訓練にも参加している。	訓練は毎月実施し、年2回はそれぞれ消防署立会の下昼夜を想定し利用者と共に通報や避難誘導、水消火器を使用しての訓練等を実施し消防から講評をもらっています。地域の集まりに参加した際に訓練への協力を働き掛けたり、地域の防災訓練に利用者と共に参加し災害発生時の地域との協力関係の構築に努めています。水や毛布を準備し災害に備えています。	

グループホームよさの かぐらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、職員同士でも気を付けあい、対応をしている。	社会人としてのマナーや介護職としての特性、利用者の尊重等について説明し、利用者がどう受け止めるかを自分に置き換えて考え利用者に応じた対応をするよう伝えています。不適切な声かけがあれば管理者が注意をしています。排泄や入浴介助時は希望に応じて同性介助をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定しやすいように、希望の聞き取りを選択肢のある質問にしたりしながら、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを大切に過ごしてもらえるように、聞き取りをしながら希望にそった支援をできるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひとりで選択するのが難しい方は一緒に服を選んだり、髪の設定をしたり、お化粧をされたり、ひとりひとりその方らしさを大切にできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを一緒に考えたり、できることはできるだけ利用者にしてもらいながら、食事の準備、また片づけをしている。	献立は食材を見たり利用者と共に考えて決め、買い物も利用者と一緒にしています。利用者はキッチンに入って皮剥き等に携わり、職員も同じ食事を一緒に食べています。おせち料理や行事食、事業所で育てた野菜や地元の野菜を使ったり、回転寿司などの外食や弁当を持って出かける等、食事を楽しめるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と相談したり、疾病を考慮した食事量や個々のADLに合わせた食事形態での食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後となると不確実な部分もあるが、夜は必ず口腔ケアの実施、義歯洗浄を行うことで清潔な口腔内が保てるよう支援している。		

グループホームよさの かぐらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄習慣を把握し、個々の排泄目標を定め自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を基に個々のパターンを把握して声かけや案内を行っています。トイレでの排泄を基本とし、会議で利用者個々に応じた支援の方法や排泄用品の種類や大きさ等を検討しています。在宅時はポータブルトイレを使用していた利用者も排泄支援を継続することでトイレで排泄できるようになった方もおり、失敗を減らし自立に向かえるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドリンクメニューを作成し、飲みたくなるような工夫や野菜中心の食事、お腹のマッサージを行うなど便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が入りたいときには出来るだけ、入浴できるようにし、また入浴が苦手な方にも入りたいと思ってもらえるよう入浴剤や誘いの工夫をして、個々にそった支援をしている。	入浴は週2～3回を目安に15時から17時半位の時間帯を基本にしていますが、夕食後等の希望があれば出来る限り希望に合わせて支援をしています。拒否が見られる利用者には声をかける職員を代えたりタイミングを工夫して無理なく入浴してもらっています。浴室と脱衣場の温度差にも注意し、好みのシャンプーやゆず湯を実施し、楽しく入浴できるよう支援しています。また足湯に出掛けることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ眠る時間が違うので、個々のタイミングで眠ってもらえるよう配慮している。また夕食後からは特に気分が落ち着くように支援している。また夜間入浴を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった場合には口頭や文書でしっかり伝達したり、薬の説明書をすぐ確認できるようにして、常に確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯、調理、掃除など個々の能力や習慣に合わせた役割を提供できるように支援している。気分転換のレクリエーションや外出などの声掛けも行っている。家族様からご意見や情報を聞いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎朝聞き取りを行い、希望に応じ近隣への散歩から遠出の外出まで、個々の要望にできるだけ沿い、出かける機会をたくさん持てるように支援している。	散歩や買い物に出掛けることを日課にしています。天気が良い時はドライブへ出掛けたり、初詣や夏の花、桜、紅葉等の季節の外出や亀岡の他施設や福井等、遠方への外出も実施しています。家族との個別の外出に職員が付き添ったり、屋上で外気浴を楽しむ等、重度の利用者も外出する機会を作っています。	



グループホームよさの かぐらユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員側で預かり、希望に沿った買い物ができるように支援している。自分でお金を管理されている方は職員も気を付けて見ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時には電話をかけられるように支援したり、暑中見舞いや年賀状を出すように支援している。毎日のようにハガキのやりとりをされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が安心できる場所であり、生活感、居心地がよい空間であるように配慮など考えている。音楽など静かな環境が好きな方があり、配慮している。	共用空間は門松や雛祭、七夕、クリスマス等の飾り付けを行い季節を感じられるよう工夫をしています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、1人で過ごせる空間も作っています。常時換気に留意し、日々の掃除の他年に2回は業者にワックス掛けをしてもらい清潔保持に努めています。椅子式の炬燵等も置き快適で過ごしやすいように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にしきりを作り、個別の空間が作れるように工夫している。また席は気の合った方同士が楽しく過ごせるよう常に検討を重ねている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具などをもちこんでもらうことで、入居前に過ごしておられた居室空間に出来るだけ近づける工夫をしている。	入居時に使い慣れた物や本人にとって大切な物を持って来てもらうよう伝え機や座椅子、筆筒、テレビ、ぬいぐるみ、本、家族の写真等を持ち込んでいます。可能な利用者には自宅の部屋の写真を参考に家具を配置しています。趣味のバイオリンを持ち込んだり、漢字パズルやクイズを楽しむ方等、利用者が思い思いに安心して過ごせるよう居室作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に安全に配慮し、また利用者が何をしても分かりやすいようにトイレ札など掲示するなどして自立につながる工夫をしている。		